使用説明書

各部の名称

撮影モード切替えボタン
音量レベル切替えボタン
❶
シャッターボタン ❷
撮影表示パネル ❸
フレーミングモニター ❹
フラッシュ ❺
ファインダー窓 ❻
レンズカバー ❼
AE受光窓 ❽
レンズ ❾
ボイスレリーズモードスイッチ
レベルインジケーター
❿
マイク ⓫
ストラップ取付け部 ⓬
Konica
KONICA LENS
OPEN ▶

Konica
AUTO DATE
DATE MODE
フィルム確認窓 ⑬
ファインダー接眼窓 ⑭
日付・時刻表示窓 ⑮
オートデート切替えボタン
調整ボタン ⑯
裏ぶた開放ノブ ⑰

⑱ デート用電池室カバー
⑲ パトローネ室
⑳ フィルム感度検知ピン
㉑ スプロケット
CR 2025
3V
FILM TIP
裏ぶた ㉒
電池室カバー ㉓
途中巻き戻しボタン ㉔
三脚ねじ穴 ㉕
巻き取りローラー ㉖

撮影表示パネル各部の名称

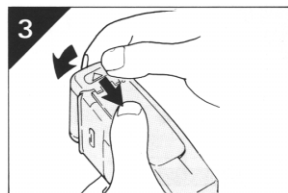
撮影準備

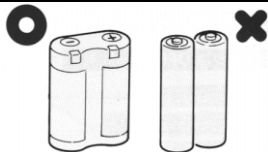
電池とフィルムを入れましょう

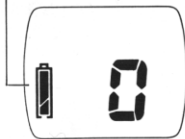
まず、電池を入れましょう。
電池が正しく入っていないとカメラは全く動きません。
また、フィルムは簡単に入れられるようになっています。
落ち着いてやってみましょう。

電池を入れてください

電池室カバーを開けてください。

電池を入れてください。

電池室カバーを閉じてください。

使用できる電池

使用できる電池は、リチウム６ボルト２ＣＲ５タイプです。
単３型の電池は使用できません。

電池の状態がひと目で分かります。

電池マークを見れば、電池の残量がひと目で分かります。

電池は充分です。

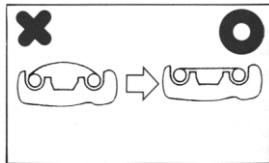
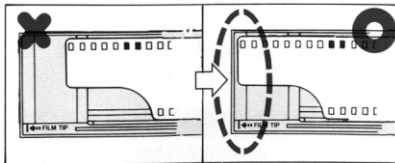
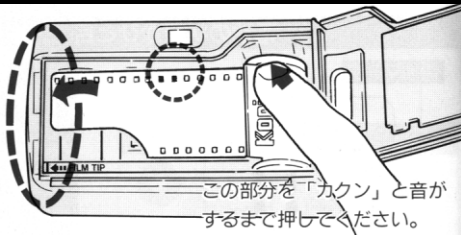
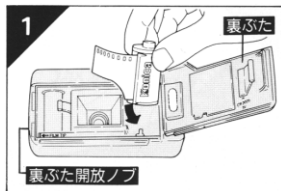
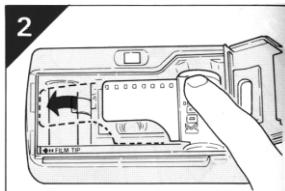
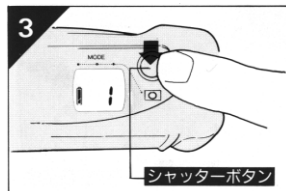
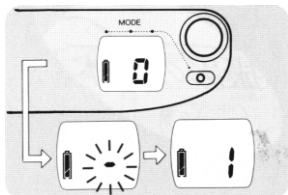
残り少なくなっています。
新しい電池と交換しましょう。

電池がなくなりました。
もうシャッターは切れません。

になったら新しい電池と交換してください。

電池交換の際には、必ずフィルムを巻き戻してから行なってください。

フィルムを入れるときに確認すること

スプロケット（フィルム送り歯車）がパーフォレーション（フィルム送り穴）から出るように。
フィルムの先端を、|←FILM TIPマークに合わせてください。

フィルムを入れてください

裏ぶた開放ノブを押し下げ、裏ぶたを開けてください。
次に、フィルムをパトローネ室に入れてください。

パトローネ(フィルムの容器)を指で押えながら、フィルムの先端を、|◀▮▮ FILM TIP マークに合せてください。

裏ぶたを閉じ、シャッターボタンを押してください。
フィルムは一枚目の位置まで自動的に送られます。
シャッターボタンを押すかわりにレンズカバーを開いても、同様にフィルムは送られます。

撮影表示パネルが図のようになると、フィルムは正しく送られています。

フィルム感度は自動設定します

このカメラは、フィルム感度を自動設定する、DX対応のカメラです。

ISO 100, 200, 400のフィルムをご使用ください。
リバーサル(スライド用)フィルムはISO 100, 400をご使用ください。

フィルムが送られていないと

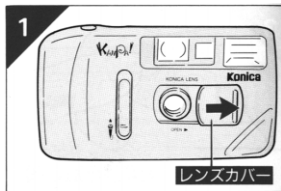
この表示になるとフィルムは正しく送られていません。裏ぶたを開けて初めからやり直して下さい。

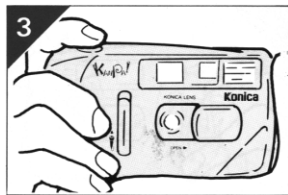
フィルムが正しく送られていないとシャッターは切れません。

撮影の基本

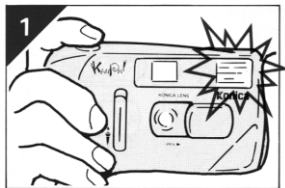
さて、いよいよ撮影です。

レンズカバーを開いたときに、すべて自動になっています。
難しいことはカメラにまかせて、気楽に撮影を楽しんでください。

一般撮影

レンズカバーを開けてください。この状態でフルオートに設定され、暗ければ自動的にフラッシュが光ります。

ファインダーをのぞき、撮影範囲を決めてください。

シャッターボタンを静かに押して撮影してください。
撮影が終ると、フィルムは1コマ分自動的に巻き上げられます。

日中・戸外で、きれいに写真が撮れる距離(撮影範囲)
近付きすぎ
きれいに写ります
1.1m
∞

自動フラッシュ撮影（暗いとき自動発光）

暗いところでは自動的にフラッシュが光ります。

自動フラッシュ撮影で、きれいに写真が撮れる距離（撮影範囲）

	近付きすぎ	きれいに写ります	遠すぎます
ISO 100	1.3m	3.3m	∞
ISO 400	1.1m	3.3m	∞

ISO 400のフィルムを使うと

ISO 400のフィルムを使用すると、フラッシュの光量は自動的に減量されます。したがって、光が届く距離は変わらず、充電時間が短くなり、約1.5秒のクィックチャージになります。
また、ピントの合う範囲が広くなり、近距離では1.1mから撮影できます。

充電中はシャッターが切れません

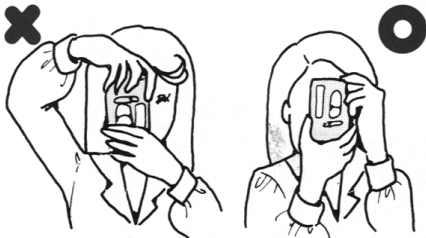
AUTO ⇨ AUTO

充電中　　充電完了

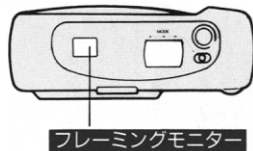
フラッシュの充電が完了するまで、シャッターは切れません。

撮影のヒント

カメラの構え方

肩の力を抜きワキを閉め、カメラを安定させましょう。左手の指がレンズやフラッシュにかからないように注意。右手はカメラをすっぽり包み込み、右手全体で絞るようにシャッターを切るとカメラぶれを起こしません。

縦位置では、フラッシュが上になるように。
親指をシャッターボタンにかけ、握手をするように右手全体でシャッターを切ります。

フレーミングモニターの活用法

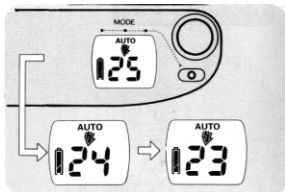
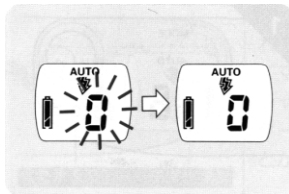
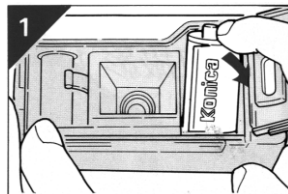
フレーミングモニターをうまく活用すると、いつもと違ったアングルで撮影することができます。

ローアングル撮影

ハイアングル撮影

撮影が終ったら

フィルムを取り出しましょう。

フィルムを全部撮り終ると
自動的に巻き戻しが始まり、
巻き戻しが終ると自動的に止まります。
フィルムを取り出し、早目に現像に出しましょう。

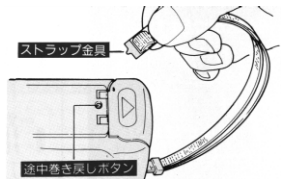
フィルムの取り出し

フィルムが最後になると自動的に巻き戻しが始まり、フィルム枚数計は減算されます。

巻き戻しが完了すると、フィルム枚数計が0の点滅になり、自動的に停止します。

裏ぶたを開けて、フィルムを取り出してください。

フィルムを取り出さないと、シャッターは切れません。

「最後の一枚」にご用心

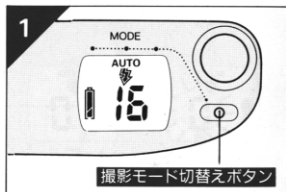
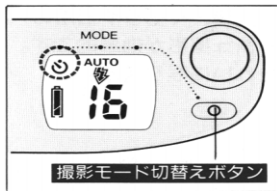
正しくフィルムを入れると、指定枚数以上撮影することができますが、最後の一枚は現像処理等によってプリントできない場合があります。
ご注意ください。

撮影途中での巻き戻し方法

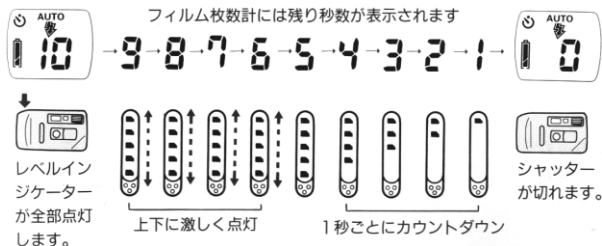
撮影の途中で巻き戻しをしたいときは、カメラの底の途中巻き戻しボタンを押して下さい。
撮影の途中でも巻き戻すことができます。

応用撮影 1

撮影モードを替えてみましょう。

撮影モードを替えることで、
高度な撮影テクニックを使うことができます。
特に、フラッシュのON･OFFモードでは、
シャッター速度が延長され、
撮影効果が大きく変わります。

撮影モードの切替え

撮影モード切替えボタンを押してください。
一度押すごとに４つの撮影モードが循環します。

撮影モード切替えボタンを押し、
マークを表示させてください。
次に、写る範囲を確認し、シャッターボタンを押してください。

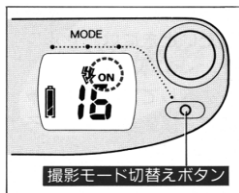
一人で記念写真を撮りたいときや、全員もれなく写真に写りたいときには、セルフタイマーが便利です。
シャッターボタンを押して10秒後にシャッターが切れますので、撮影者自身も写ることができます。

セルフタイマー撮影

セルフタイマー撮影のコツ

シャッターが切れる４秒前になるとレベルインジケーターが下から上にカウントダウン。シャッターチャンスを確認できますから、全員でポーズをつくれます。

三脚などでカメラを安定させましょう。

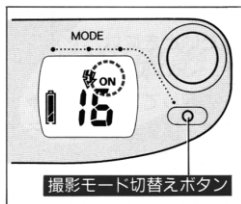
キャンセル（途中解除）したいときには、レンズカバーを閉じます。

日中フラッシュ撮影(フラッシュONモード)

撮影モード切替えボタンを押し、ONマークを表示させてください。明るいときでもフラッシュが使えます。

逆光や室内窓際の人物、くもりや日陰の人物には日中フラッシュ撮影が効果的です。人物も、背景もきれいに写ります。

フラッシュなし

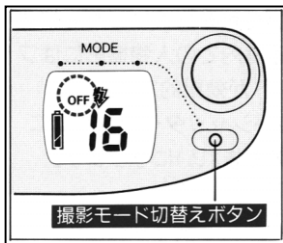
フラッシュ使用

スローシャッターシンクロ撮影（フラッシュONモード）

撮影モード切替えボタンを押し、ONマークを表示させてください。

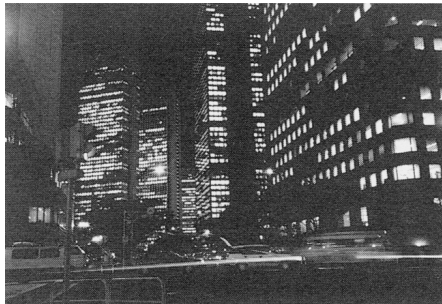
夕焼けや、明るい夜景を背景にした人物撮影、雰囲気のある室内での人物撮影にはフラッシュONモードが効果的です。
最長1/2秒のスローシャッターシンクロになり、人物も背景もきれいに写ります。

自動発光フラッシュ

スローシャッターシンクロ

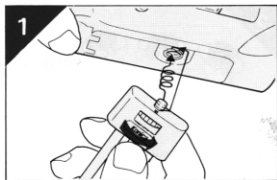
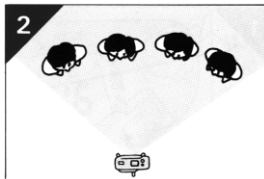
タ、夜景のAE撮影(フラッシュOFFモード)

撮影モード切替えボタンを押し、
OFFマークを表示させてください。

暗くてもフラッシュを使いたくないときには、フラッシュOFFにしましょう。最長１秒のスローシャッターになり、タ、夜景の撮影も可能です。
カメラぶれを起こしやすいので三脚を使ってカメラを安定させましょう。

三脚などでカメラを安定させましょう。

応用撮影２

ボイスレリーズモードを
使ってみましょう。

ボイスレリーズモードにすると、
話し声や笑い声に反応して
自動的にシャッターが切れます。
また、付属の三脚に取り付けると、
シャッターが切れたあとカメラが首を振り、
任意の位置に止まります。

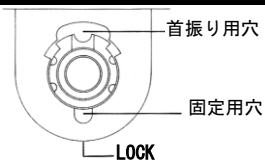
ボイスレリーズモードでの撮影

付属の三脚をカメラに取り付けてください。
そのとき、三脚ネジのノブを押し上げるようにし、三脚のピンはカメラ底の首振り用穴に合わせてください。

全員が写るように、1.1m以上離してカメラを置いてください。

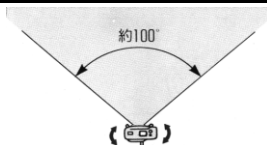
ファインダーをのぞきながら、カメラを左右に軽く振り、写る範囲確認してください。

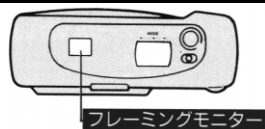
これらの操作を行うときには、ボイスレリーズモードのスイッチが入っていないことを確認してください。
スイッチが入っていると、カメラを動かすときに、不用意にシャッターが切れることがあります。

レンズカバーを開き、次にボイスレリーズモード切替えスイッチを入れてください。

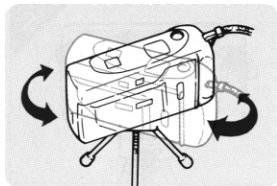
音量(声)が一定のレベルに達すると、自動的にシャッターが切れます。

カメラを固定したいときには

三脚のピンを固定用穴に入れると、カメラは首を振りません。

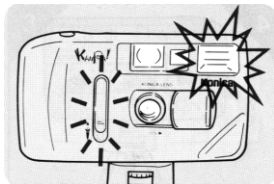
写る範囲(撮影画角)

ボイスレリーズモードでは、カメラが自動的に首を振りますから、撮影画角は全体で約100°になります。

便利なフレーミングモニター

大まかに写る範囲を知りたいときには、フレーミングモニターでも確認できます。10cm以上離れて、真上からのぞいてください。

ボイスレリーズモードでの写る距離(撮影範囲)
日中、戸外（フラッシュを使わないとき）
近付きすぎ
きれいに写ります
遠すぎます
0.9m
4.6m
∞
ISO 100のフラッシュOFF
1.1m
3.1m
∞
夜間、室内（フラッシュ撮影のとき）
近付きすぎ
きれいに写ります
遠すぎます
ISO 100
1.1m
3.1m
∞
ISO 400
0.9m
3.3m
∞

ボイスレリーズモードでの撮影

シャッターが切れるたびにカメラが無作為に首を振って止まり、次のシャッターチャンスに備えます。

カメラの首振りについて

シャッターが切れるたびに、カメラは首を振りますが、止まる位置はランダム(無作為)に選ばれ、声の方向とは関係ありません。

撮影が終わり、巻き戻しが完了すると、レベルインジケーターが10回点滅。その後フラッシュが５回連続発光し、撮影終了を知らせます。

フラッシュOFFモードのときには、フラッシュの連続発光はしません。

ボイスレリーズモードについて

ボイスレリーズモードにすると

1. 音(声)に反応して自動的にシャッターが切れます。
2. 全体的に音が大きいと、徐々にシャッターが切れにくくなるように自動調整されます。
3. 逆に、全体的に音が小さいと、徐々にシャッターが切れやすくなるように自動調整されます。
4. さらに、撮影者が音量レベルを選ぶことができます。(このページ参照)
5. ビンの倒れる音などの衝撃音には反応しません。

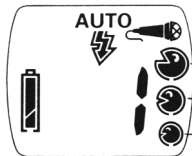
付属の三脚にセットすると

1. シャッターが切れるとカメラが首を振り、任意に停止します。
2. 首振り角度は左右に約20°、計40°です。
3. 全体の撮影範囲は、レンズの画角(60°)を含め、約100°になります。
4. 撮影角度は、声の出る方向には関係なく、無作為に選ばれます。
5. 三脚の取り付け方で、カメラを固定することもできます。

音量レベルについて

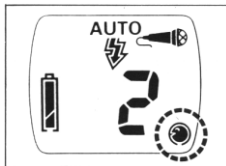
ふだんは音量レベル中で使用してください。カメラはその場の音(声)量に合わせてマイクの感度を自動調節します。

切替えボタンを押すと音量レベルが変わりますから、たくさん撮りたいときにはレベルを小にし、撮れすぎるようなら大にしましょう。

どのレベルでもマイク感度の調節は自動です。また、フラッシュON・OFFモードとの組み合わせもできます。

撮影のヒント

パノラマ写真にチャレンジ

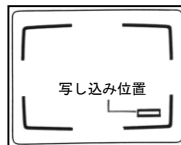
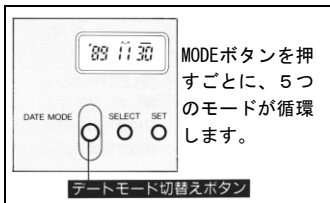
ボイスレリーズモードで撮った写真をうまくつなぎ合わせると、パノラマ写真ができます。

ボイスレリーズモードで２ショット

ボイスレリーズモードは、セルフタイマーの代わりにもなります。
三脚をカメラの固定用穴にセットしたら、音量レベルを小にして、カメラに声をかけてみましょう。
「チーズ」とか「ウィスキー」といえば、自然と笑顔に写ります。

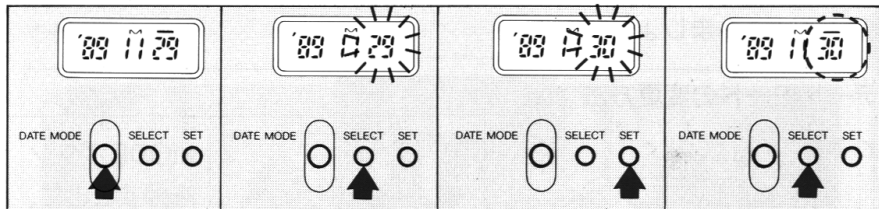
オートデートについて

オートデートとは、自動的に日付や時刻を写真の中に写し込む装置です。
MODEボタンを押すと、デートモードが切替わりますので、目的に応じて使い分けてみましょう。

デートモードの変更方法

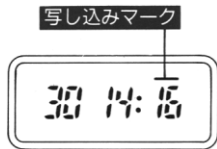
このカメラは、2019年12月31日までのカレンダー(閏含む)を記憶しています。

ファインダーをのぞいて、日付、時刻が写し込まれるおよその位置です。
背景が白っぽいところでは、写りにくくなります

オートデートの調整

日付・時刻の調整

MODEボタンを押して、修正する日付または時分をパネルに表示させてください。

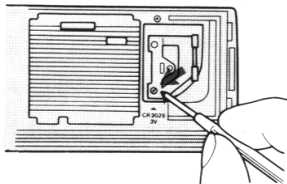
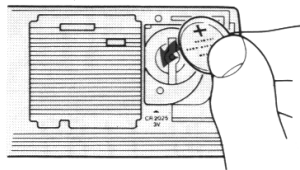
SELECTボタンを押して、修正する日付または時分を点滅させます。

SETボタンを押して、日付または時分を点滅のまま修正してください。

SELECTボタンを押すと、点滅が点灯になり、━━のマークが現われて写し込みの状態になります。

分を修正した後、SELECTボタンを押すと、: が点滅します。もう一度SELECTボタンを押して、━━ のマークを出し、写し込みの状態にしてください。
秒まで合わせるには、: が点滅している間に時報に合わせてSETボタンを押します。さらにSELECTボタンを押して、写し込みの状態にしてください。

オートデート用電池の交換方法

オートデート用には、リチウム電池CR2025:3Vを使用しています。およその交換時期は、約４年です。デートの数字が見えにくくなったら、新しい電池と交換してください。

電池交換後は、日付・時刻の調整をしてください。

小型のプラスドライバーでデート用電池室のねじをはずします。

新しい電池を、⊕を上にして入れ替え、元のとおりにカバーをねじで止めます。

おもな仕様

形　　　式	レンズシャッター式35mmカメラ
画面サイズ	24×36mm
レ　ン　ズ	コニカレンズ　f=34mm　F5.6（3群3枚構成）
シャッター	電子プログラムシャッター（1～1/200秒）、電磁レリーズ ボイスレリーズ（3レベルの音量調節可能）液晶パネルに表示
メインスイッチ	レンズカバー兼用（閉じた状態でシャッターロック）
焦点調節	2点式固定焦点
ＡＥ調節	CdS 受光素子使用　プログラムＡＥ（中央重点測光）
ＡＥ連動範囲	ISO 100：EV6（F8・1秒）～EV15.6（F16・1/200 秒）
フィルム感度	フィルム感度自動設定（ISO 100/200、ISO 400）
ファインダー	アルバダ式透視ファインダー フレーミングモニター用ブリリアントファインダー
フラッシュ	手ぶれ限界輝度時に自動発光する、フラッシュマチック機構 連動範囲　1.1～3.3m（ISO 400 時は、0.9～3.3m）ボイスレリーズ時を含む， 発光間隔約 2.5秒（ISO 400 時は約 1.5秒）
セルフタイマー	電子式　作動時間約10秒、レベルインジケーター及び液晶パネルに表示 途中解除可能

モード切替え	フラッシュ AUTO ➡ セルフタイマー ➡ フラッシュ ON ➡ フラッシュ OFFの４モードを循環
フィルム給送	電動式　シャッターボタンスタートによるオートローディング、自動巻き上げ、自動巻き戻し、自動停止　途中巻き戻し可能
フィルム枚数計	順算式、液晶パネルに表示
巻き戻し撮影終了表示	ボイスレリーズ撮影時の巻き戻し終了で表示　レベルインジケーター10回点滅。フラッシュ使用時は、その後フラッシュ５回発光
オートデート	液晶表示式デジタルウォッチ内蔵　西暦2019年までの、年月日・日時分・写し込みなし・月日年・日月年の５モードを循環　秒単位までの調整可能
撮影可能本数	50%フラッシュ発光のとき：約50本（24枚撮りフィルム）
電源	主電源：リチウム電池（２ＣＲ５・６Ｖ）１コ オートデート用：リチウム電池（ＣＲ2025・３Ｖ）１コ
大きさ・重さ	126.0×67.0×48.5mm　195ｇ（電池別）

＊上記の性能については、当社試験条件によります。　＊製品の仕様、外観は予告なく変更することがあります。